

令和8年度 第1回佐賀県教育センター運営協議会



< 説明資料 >

令和7年度事業評価結果及び
令和8年度事業評価計画について

- (1) 研修課
- (2) 教育支援課

事業評価の指標について

100点満点中の85点を高評価の基準としている。

4件法

評価項目(4つ)

- ・そう思う 4点
- ・だいたい思う 3点
- ・あまり思わない 2点
- ・思わない 1点

4点満点

4点満点の85% → 3.4

評価指標 3.4

6件法

評価項目(6つ)

- ・とてもそう思う 6点
- ・そう思う 5点
- ・少しそう思う 4点
- ・あまりそう思わない 3点
- ・そう思わない 2点
- ・全くそう思わない 1点

6点満点

6点満点の85% → 5.1

評価指標 5.1

令和7年度事業評価結果及び 令和8年度事業評価計画について

(1) 研修課

- 総合企画担当
- 教職研修担当

令和7年度 研修課 事業評価 結果

番号	事業名	評価項目	指標	評価結果	備考
1	必須研修	初任者研修受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.58)	受講者317名
		中堅教諭等資質向上研修受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.30)	受講者195名
		2年目研修受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.67)	受講者306名
		3年経験者研修受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.36)	受講者320名
		養護教諭研修受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.75)	受講者57名
		教育行政職員研修受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.29)	受講者705名
2	職務別研修 課題別研修	職務別研修受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.40)	受講者1386名
		課題別研修受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.71)	受講者289名

※評価はアンケート結果(6件法)による

※職務別研修、課題別研修の受講者数には無回答者を含む延べ人数を計上

令和7年度 研修課 事業評価 結果

番号	事業名	内容・評価項目	指標	評価結果	備考
2	希望等研修	希望等研修受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.52)	受講者3,126人
7	インターネット活用	教育センターWebからの情報提供 教育センターWebの総アクセス件数	年間アクセス数 350万件以上	達成 (679万件)	

※希望等研修の受講者数には無回答者を含む延べ人数を計上

令和8年度 研修課 事業計画

研 修 課 〈総合企画担当〉

必須研修

●初任者研修

校外研修 12日のうち、共通研修 5日と選択研修 1日を実施する。

●中堅教諭等資質向上研修

校外研修 10日のうち、共通研修 6日と自己課題解決研修（選択研修） 4日を実施する。

●2年目研修

校外研修 3日のうち、フォローアップ研修 1日と選択研修 2日を実施する。

●3年経験者研修

校外研修 3日のうち、全校種合同研修会 1日と企業・福祉施設等体験研修 2日を実施する。

●養護教諭経験年数別研修

経験年数に応じた各研修を実施する。

- ・新規採用養護教諭研修 4日
- ・養護教諭 2年目研修 2日
- ・養護教諭 3年経験者研修 2日
- ・中堅養護教諭資質向上研修 2日

●教育行政職員研修

- ・教育行政職員（新規採用職員・主事・主査・事務主任・事務長・統括事務長等）を対象とした各研修を実施する。

研修課〈教職研修担当〉

必須研修(職務別研修・課題別研修)

●職務別研修

教職員の職務に応じた専門的な知識や技能の向上を図るために、職務別を実施する。

●小学校新任理科担当教諭研修

- ・令和2年度より、対象者を「初めて理科の授業を行う教諭」として、1日対面で実施する。
- ・令和4年度より、繰り返し確認が必要な内容をオンデマンドで提供し、半日対面で実施する。
- ・佐賀市、佐賀市を除く東部地区、西部地区、北部地区の4地区に分け、同内容を4回実施する。

●中・高新任理科教諭研修

- ・新規採用の理科担当教諭を対象として、1日対面で実施する。
- ・令和4年度より、繰り返し確認が必要な内容をオンデマンドで提供する。

●小学校新任家庭科担当教諭研修

- ・令和4年度に、対象者を「初めて家庭科の授業を行う教諭」として、衣生活分野と食生活分野についてそれぞれ半日研修を新設した。
- ・東部地区、西部・北部地区の2地区に分け、同内容を2回ずつ実施する。
- ・食生活分野については、リアルタイム・オンラインで実施し、受講者は所属校の家庭科室において実習を行い、様子を配信する。

研修課〈教職研修担当〉

希望等研修【本講座 ※R8は公開講座・出前講座なし】

【R8年度】

「教科・領域等の専門的かつ実践的指導力の向上を図る」ことを目的とし、
本講座 84本 を設定 ※ ST認証の関連で開講無し2本を含む

◆オンライン研修を充実

・リアルタイム・オンラインを20本、オンデマンドを3本実施予定

◆スーパーティーチャーによる授業講座（18本）を実施予定

※ ST認証の関連で開講無し2本を含む

◆「新たな教師の学び」に向けて、多様な研修の充実を図る

・県内の教育課題を踏まえ新規講座を設定
〈例〉保護者とのよりよい関係づくり講座
※併せて教育委員会向け研修を
午前中に実施

佐賀県教育センター主催
佐賀県教育委員会事務局・各市町教育委員会向け研修

『いじめ防止対策推進法』下で起きている
学校・子ども・保護者関係の変容を前にして
最も必要なこと

2026年
8月20日(木)

受付開始 9:00
開講 9:30/開会11:30
会場 アバンセホール
(佐賀市天神三丁目2-11)

申込締切 8月6日(木)まで
申込みはこちら→

講師 小野田 正利 氏
(大阪大学名誉教授)

県教育委員会事務局・市町教育委員会の方は誰でも参加可能です！

令和8年度 佐賀県教育センター希望等研修

「保護者とのよりよい関係づくり講座」

2026年
8月20日(木)

受付開始 12:35～
開講 13:00/開講16:25
会場 アバンセホール 定員 300名
(佐賀市天神三丁目2-11)
※研修受講申込書にて8月6日(木)
まで受け付け可能
(先着順で、定員になり次第締め切ります。)

講師 小野田 正利 氏
(大阪大学名誉教授)

保護者対応に係る研究で有名な
小野田先生による講演です。
この機会をぜひお見逃しなく！

「新たな教師の学び」に向けて —令和4年度からの取組み—

研修課

令和4年度

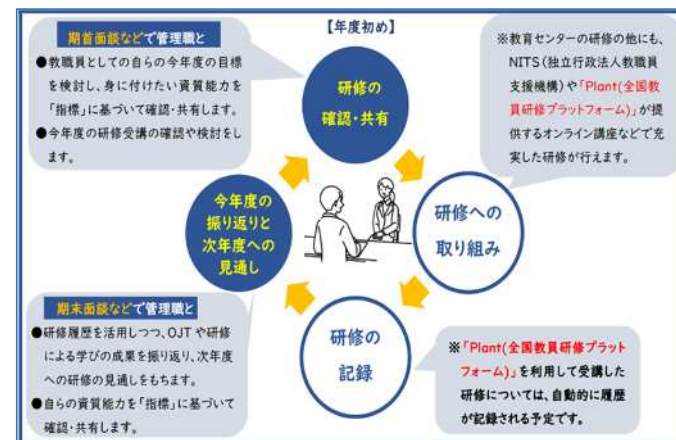
佐賀県教員育成協議会を1回開催

現行の佐賀県教職員の指標について協議し、策定

令和5年度

研修履歴を活用した対話に基づく
受講奨励の開始

研修受講履歴記録システム及び教員研修プラットフォーム
(通称Plant) の利用準備



令和6年度

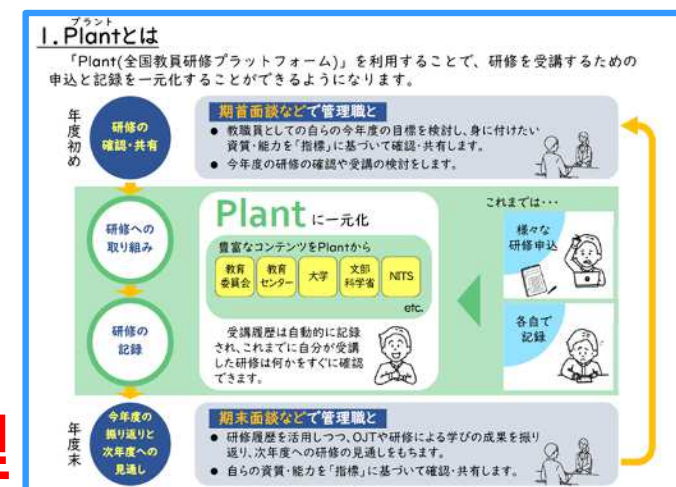
Plantの部分的な機能の運用開始及び
次年度全機能運用開始に向けた準備

令和7年度

Plantの全機能の運用開始及びPlant
利活用に伴う課題等の検討・整理

令和8年度

Plantの更なる活用の検討・整理
「研修観の転換」に向けた調査・研究



研 修 課 〈教職研修担当〉

インターネット教育活用事業

【R 8 年度】

昨年度に引き続き、教育センターWebで教育に関する最新情報や研究成果等を発信し、県内教職員の「教育情報ポータルサイト」としての活用を目指す。

◆ 教育センターWebサイトの運用

- ・ Web運用総括は教職研修担当で行い、所管するページの更新は各担当で行う。

◆ 研修情報の発信（研修案内や緊急時の連絡等を掲載）

◆ 各種教育情報の発信

◆ 佐賀県教育センター内の研究物や指導案を検索するための「S A G A せ～る指導案」を提供

◆ 教育センターWeb上の受講者専用ページにて、オンデマンドで研修を実施

要望にお応えし、随時更新をしています！

研 修 課

研修に係る確認事項

◆受講に必要な連絡等

- ・ オンラインで実施する職務別研修・課題別研修・希望等研修の情報は、「新教育情報システム(SEI-Net)メール」で行う。受講者へ連絡する際は、情報共有のため、教頭（副校長）も入れてBCCで連絡を行う。

◆緊急時の連絡等

- ・ 台風や大雨等の悪天候による研修の延期や変更の連絡は、教育センターWebで行う。原則、文書や電話による連絡はしない。

※「緊急時の連絡」「近日実施予定の研修」「研修実施要項」に反映

(2) 教育支援課

- 研究調査担当
- 生徒支援担当

令和7年度 教育支援課 事業評価 結果

番号	事業名	内容・評価項目	指標	評価結果	備考
3	プロジェクト研究	プロ研委員、センター所員の取組意欲、理解度、活用意識	平均3.4以上	達成(3.82)	調査対象 委員15名
4	個別実践研究	センター所員の取組意欲、理解度、活用意識	平均3.4以上	達成(3.80)	調査対象 所員14名
5	学習状況調査	希望等研修 学習状況調査の分析・活用講座 【オンデマンド研修】受講者の評価	平均5.1以上	達成(5.20)	調査対象 36名
6	学校支援 (各教科・領域等)	各教科・領域等、教育相談・生徒指導、 特別支援教育に係る学校支援 支援校教員の理解度、効用感、活用意識	平均3.4以上	達成(3.76)	調査対象 993名

※3, 4, 6の評価はアンケート結果(4件法)による。

※5の評価はアンケート結果(6件法)による。

令和7年度 教育支援課 事業評価 結果

番号	事業名	内容・評価項目	指標	評価結果	備考
8	図書資料室管理	資料の収集 教科書展示会の実施	評価しない	—	
9	広報業務	メールマガジン「ミネルバ」の発信 SNSアプリ「LINE」による情報発信	評価しない	—	

3 プロジェクト研究

4 個別実践研究

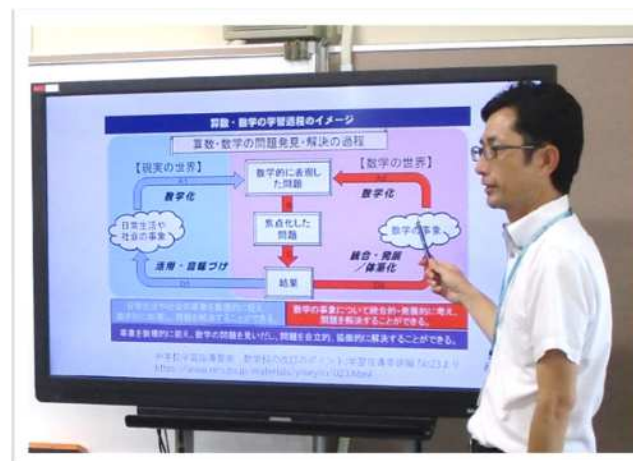
全所体制 での研究

プロジェクト研究(2/2年次)		個別実践研究 【小・中学校各教科】		【教育相談・生徒指導、特別支援教育】	
『主体的・対話的で深い学び』 の実現に向けた 授業改善		PDCAサイクルを意識した授業改善の 具体についてまとめました！		校内研修等で活用できる 研修資料（動画） と アセスメントツール を作成しました！	
『 見方・考え方 』を働かせる授業へ、 各研究教科から提案します！		児童生徒が、 各教科における 資質・能力を 身に付けるための 授業づくり		『チーム学校』による 不登校の 未然防止 と 早期発見・早期対応 に向けた 取組の充実	
小 学校 国語科 算数科	中 学校 国語科 数学科 英語科	小 学校 図画工作科 外国語科	中 学校 理科 音楽科 美術科	令和7年度佐賀県教育センター研究成果  詳しくは Webで！  ©SAGA Prefectural Education Center	

3 プロジェクト研究

4 個別実践研究

令和7年度
「プロジェクト研究」及び「個別実践研究」
授業公開と授業研究会の様子
小学校国語科、算数科、外国語科
中学校数学科、美術科



6 学校支援(各教科・領域等)

学校支援件数

《学校等へ出向いての支援》

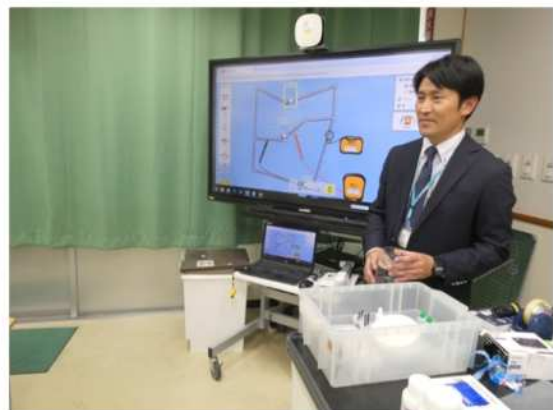
	総件数	内訳				
		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他
令和7年度	133件	31件	40件	17件	3件	42件

《来所者への支援等》

	総件数	内訳				
		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他
令和7年度	51件	19件	24件	1件	1件	6件

6 学校支援(各教科・領域等)

令和7年度
学校支援(各教科・領域等)の様子



令和8年度 教育支援課 事業計画

3 プロジェクト研究(2か年計画1年目)

センター所員と研究員(学校の教職員)とでプロジェクトチームを組織して進める。

小学校:国語科、算数科、外国語活動・外国語科

中学校:国語科、数学科、英語科

4 個別実践研究(1年計画)

センター所員がチームを組んで、原籍校と連携を図りながら進める。

小学校:理科、道徳科、学校保健

中学校:理科、音楽科、美術科、道徳科

小学校:国語科、算数科、外国語活動・外国語科
中学校:国語科、数学科、英語科

研究主題

学びの系統性と連続性を意識した授業づくりー学校段階間の接続を踏まえた指導の充実に向けてー

○プロジェクト研究における作成予定コンテンツ(一部)

理論編

[illegible]

実践編

【基礎】基礎知識・基礎技能の習得

【応用】基礎知識・基礎技能の活用

【発展】基礎知識・基礎技能の応用

【基礎】基礎知識・基礎技能の習得

【応用】基礎知識・基礎技能の活用

【発展】基礎知識・基礎技能の応用

基礎知識・基礎技能の習得

【基礎】基礎知識・基礎技能の習得

【応用】基礎知識・基礎技能の活用

【発展】基礎知識・基礎技能の応用

基礎知識・基礎技能の活用

【基礎】基礎知識・基礎技能の習得

【応用】基礎知識・基礎技能の活用

【発展】基礎知識・基礎技能の応用

基礎知識・基礎技能の応用

【基礎】基礎知識・基礎技能の習得

【応用】基礎知識・基礎技能の活用

【発展】基礎知識・基礎技能の応用

基礎知識・基礎技能の応用

【基礎】基礎知識・基礎技能の習得

【応用】基礎知識・基礎技能の活用

【発展】基礎知識・基礎技能の応用

基礎知識・基礎技能の応用

【基礎】基礎知識・基礎技能の習得

【応用】基礎知識・基礎技能の活用

【発展】基礎知識・基礎技能の応用

基礎知識・基礎技能の応用

【基礎】基礎知識・基礎技能の習得

【応用】基礎知識・基礎技能の活用

【発展】基礎知識・基礎技能の応用

4 個別実践研究

研究主題

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る授業づくり
ー 児童生徒が各教科等において育成を目指す資質・能力を身に付けるためにー

小学校:理科、道徳科、学校保健
中学校:理科、音楽科、美術科、道徳科

○個別実践研究における作成予定コンテンツ(一部)

Sample

令和8年度 佐賀県教育センター個別実践研究(小・中学校各教科等)

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

なぜ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが求められているのでしょうか。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」とは、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、急速に変化し続ける社会において、これからの時代で求められる資質・能力の育成を、多様な特性を有する全ての児童生徒に対して実現しようという視点です。

児童生徒が、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、「学びの過程」を一人一人の個性に応じた多様な関心・意欲を引き出す方向で質的に改訂していくことが不可欠です。

その達成には、教師による児童生徒の丁寧な見取りや、内容や時間のまとまりを見通した授業づくりを通じた学習過程と学習環境の丁寧な設計等、様々な点において教師が力を付け、指導性を発揮し、取組を進化・成熟させていく必要があります。

本研究では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る授業づくりのように進めたいのか、授業づくりの在り方とその具体的な方策を明らかにしていきます。

「個別最適な学び」

「個別最適な学び」とは、どのような学びなのでしょうか。

「個別最適な学び」とは、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念です。

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた資質・能力の育成を、誰一人取り残さず全ての児童生徒に実現できるようにしていくための視点が、「個別最適な学び」であると見えます。

「協働的な学び」

なぜ、「協働的な学び」が必要なのでしょうか。

「協働的な学び」とは、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥ることがないよう一体的に充実していくために、学びを広げ深めていくものであると考えます。

例えば、一人一人が学ぶ場面に、意図的に協働的な場面を設けることや、協働的な場面でも、一人一人の学びが深まるような工夫を行うことなどが考えられます。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を進めるために

では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図るための授業づくりのように進めたいのか、本研究では、次の3点に着目します。

- 単元(題材)全体で学びを捉えること
- 「個別」「協働」「全体」の学びを効果的に組み合わせること
- 目的に応じたICTを効果的に活用すること

授業づくりは、単元(題材)全体を見通して行うことが重要です。

「主体的・対話的で深い学び」は、1単位時間の授業の中で全てを実現しようとするのではなく、単元(題材)という一定のまとまりの中で実現していくことが求められています。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る上でも、このような考え方で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を単元(題材)に適切に位置付けていくことがポイントです。

単元(題材)をデザインする際は、単元(題材)の目標を達成するための一人一人の異なる児童生徒の学びの過程を見通して、全ての児童生徒が単元(題材)の目標を達成できるように、「全体」に指導する場面、「協働」が必要な場面、「個別」に学習を進める場面を効果的に組み合わせて単元(題材)をデザインすることがポイントです。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのポイントデザインがあるように

ICTは、多様な児童生徒一人一人に応じた学びを支える重要なデジタル学習基盤です。「個別最適な学び」を実現可能なものとしていく上では、児童生徒自身が主体的に学びを調整できる状況をいかに整えるかという点がとても大切であり、そうした状況を容易に実現する上で、ICTの効果的な活用がポイントです。

*さらに詳しく

- その他
- ・各教科等における「個別最適な学び」と「協働的な学び」
 - ・授業のまとめ
 - ・学習指導の展開案(学習指導プラン)
 - ・単元(題材)モデル
- など

3 プロジェクト研究

4 個別実践研究

【参考：令和7年度授業公開ちらし】

令和7年度 佐賀県教育センター 授業公開

プロジェクト × 個別実践研究

小・中学校各教科

「主権者・国際的に深い学び」の実現に向けた授業改善の取組は？」
「授業と評価の一体化」を図る授業改善について、学びたい！」

児童生徒の資質・能力を育成するために、よりよい授業づくりを行いたいと思っている先生方へ
教育センター所員による授業を参観してみませんか？
今年度、教育センターでは、小学校3教科・中学校2教科の授業を公開いたします！

中学校 数学

令和7年7月
第2学年 領域「数と式」
授業者：佐賀県教育センター
所員 原 正和
(中学校数学科担当)
会 場：佐賀市立昭栄中学校

中学校 美術

令和7年7月
第7学年 領域「表現」
授業者：佐賀県教育センター
所員 砂山 涼子
(中学校美術科担当)
会 場：小城市立小中一貫校戸川観瀾校

小学校 国語

令和7年9月
第5学年 領域「書くこと」
授業者：佐賀県教育センター
所員 有馬 崇
(小学校国語科担当)
会 場：神埼市立千代田中部小学校

小学校 算数

令和7年9月
第4学年 領域「数と計算」
授業者：佐賀県教育センター
所員 廣瀬 圭吾
(小学校算数科担当)
会 場：唐津市立相知小学校

小学校 外国語

令和7年9月
第5学年 領域「話すこと」
授業者：佐賀県教育センター
所員 内堀 瑛太
(小学校外国語科担当)
会 場：吉野ヶ里町立東育振小学校

授業公開の詳細や申込方法などは、別紙にて案内いたします

《問合せ先》
佐賀県教育センター
佐賀県佐賀市大和町大字川上827番地
TEL 0952(62)5214(研究調査担当)



【研究成果の周知方法】

- ① 授業公開と授業研究会の実施
- ② Webサイトによる研究成果の発信・活用推進
- ③ 研修や学校支援における活用
- ④ 「LINE」による周知・活用推進

佐賀大学との連携・協力事業：
大学教員との連携により研究の質の向上を図る。

5 学習状況調査

学習状況調査の分析・活用講座【オンデマンド研修】

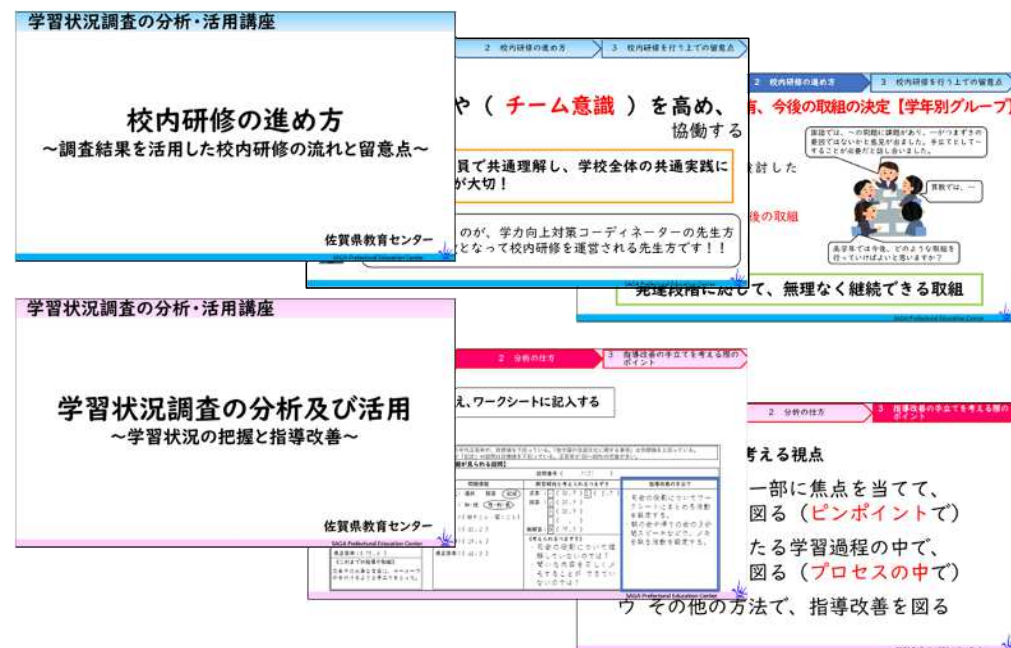
再掲

- ・校内研修の進め方
- ・調査結果の分析及び活用の仕方

各学校での自立した取組を促す

学力向上対策コーディネーターや校内で学力向上を推進する先生方による校内研修の企画、運営

各学校における指導改善・充実に役立てる



6 学校支援(各教科・領域等)

【目的】

所員の専門性を生かして各学校や各種研究団体への支援を行い、教育活動の改善と充実に寄与する。

【種類】

ア 学校等へ出向いての支援

指導助言 実践発表 資料提供 など

イ 来所者への支援及び電話・メール等による支援

指導助言 実践紹介 資料提供 など

学力向上

教育相談

生徒指導

特別支援教育

人権・同和教育

情報教育

8 図書資料室管理

教育に関する書籍や刊行物、研究資料等を収集・整理し、県内教職員の研修を支援する。

9 広報業務

教職員の資質向上に資する教育センターの取組や講座の案内・募集等の周知・広報を行い、県内の教職員に役立つ情報の提供を推進する。